



# 千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話(鉄電) 千葉 2935・2936番  
(公) 043(222) 7207番

No.

93.11.22 3896

# 不誠実団交の繰返し許すな

「きつちり団交を  
とるな」といふに、  
またも回答不能!!!

動労千葉は、この間の不誠実団交に対し、トップ交渉の開催による整理を求めてきた。(「日刊」三八九二〜三九〇三号参照)しかし千葉支社は、「開催の必要はない」と、何ひとつ理由もなくこれを拒否した。十一月十六日、こうした状況にふまえ、不誠実団交の整理に関する団体交渉がもたれた。しかし、この日の回答も、一切をひらき直る、断じて許せぬものであった。

千葉支社はこの日の交渉で、「団体交渉は従来から誠意をもって臨んでいる。十日の交渉について、不誠実団交だと言われているが、説明不足で休憩したこと、事実だが、休憩後作業のやり方等、きつちり整理したことを回答した」と言うのだ。これは全くのウソである。すでに「日刊」で交渉経過を明らかにしてあるとおり、十日の交渉は、事実と違う回答を繰返し、また、質問されたことに回答できず混乱したうえ、「整理する」と称して一時間以上も中断した上で、再開したかと思えば、再開後初めての質問にまたも事実と違う回答を行い、中断・訂正、次の質問にも回答できず中断、

……このようなことが何度となく繰り返されたのだ。そして結局、その日のうちには、ほとんど回答を整理することができず、持越になったまま団交は終わったのである。何が「きつちり整理したことを回答した」のだ。ウソをつくのもいいかげんにしろ!「一切をひらき直つてしまえ」とする態度こそ不誠実団交の最たるものだ。

ウソをつくな!  
不誠実団交問題  
をきつちり

しかも、十八日になって、持越しとなった問題の再回答が行われたが、質問すると、またも団交中に電話にかじりついてしまい、回答できないのだ。

これは、朝四時過ぎに上総亀山での入換え作業が発生することについて、十日の団交のなかで、「照明を設置すると言っているが、その時間は駅員が寝ており、誰が点けるのか」と聞いたところ回答できなくなつてしまったことについてである。千葉支社は、照明設備の工事までは考えても、それを点ける人間を寝かせてしまつてはいることに考えが及ばなかつたのだ。何というお粗末。組合から指摘さ

れて「あつ!」と気がつき、鳩首検討した結果、「新設する照明と駅構内照明のスイッチを乗務員休養室の入り口付近に設置するので運転士がスイッチを入れてほしい。しかし、工事がダイ改までに間に合わないのだから、その間は終夜点灯しておく」というのが十八日の再回答であった。ところが、組合から「ところでこの照明は水銀灯ではないのか。もし水銀灯だとしたら、スイッチを入れても完全に明るくなるまでかなりの時間がかかるが、その辺のことは考えているのか」と質問したところ、またも電話にかじりついてしまい、またも「今わかりません」という次第になつたのである。「きつちり回答している」と言つた翌々日にはすでにこの始末だ。下らぬ労務政策にばかりうつつをぬかした結果行き着いたのが千葉支社のこの姿である。

「プロ意識に徹しろ」  
と言つのは誰だ!!!

また、京葉運輸区の乗務割交番作成規程違反の交番順序については、未だ修正提案もない。土曜・休日ダイヤも「現在作業中だ」として、未だ提案されていない。それでいて、今回のダイ改交渉でも、「一度提案したものはどんな些細なことも絶対

に変更しない」とする不誠実な対応だけは絶対に変えようがない。実際にハンドルを握る者が職場の意見を集約し、全体の総意として問題を提起しても、交番順序の変更ひとつ、スジの差し替えひとつ頑なにうけつけないのである。つまり、明らかに業務遂行能力が解体してしまつているにもかかわらず、それを自覚して現場で実際に働く者の声を聞いて、誤りのないようになしようという姿勢すらないのだ。恐るべきことだ。

「プロ意識に徹しろ」とは、ことあるごとに彼らが言う言葉である。ところが、その言葉を発する者の実態はこのとおりだ。「リーディングカンパニー」とか「総合生活サービス企業」「人間尊重企業」など、看板だけは仰々しいが、中身は、革マルと結託した労務政策・組合潰しばかりに憂身をやつし続けた結果、鉄道輸送という本来の業務において死に体同然なのだ。現在のJR東日本には、死んでしまつていふことを別とすればあらゆる意味で完璧な「オルランドの牝馬」の喩えこそびつたりだ。

11.30  
12.1  
大激戦